

平成29年度(2017年度)

事業報告書

社会福祉法人 大川市福社会

I 基本理念・運営方針

1. 基本理念

人としての誇りを大切にし、地域社会で共に暮らせるよう支援します。

～「人権」「自立」「社会参加」～

2. 運営方針

- (1) 障害のある方の人権を守ります。
- (2) 利用者の障害の状態に配慮して、安心・安楽に過ごせるよう、自立に向けた支援を行います。
- (3) 障害のある方の地域生活を支えるための基盤整備を行います。
- (4) 地域社会との関わりや保護者及び関係機関・団体との連携を図りながら、利用者の社会的経済的な自立促進を目指します。
- (5) 経営基盤を安定させ、地域に貢献できる組織作りを行います。

II 事業運営

- (1) 第二種社会福祉事業 木の香園生活支援センター
「生活介護」「就労移行支援」「自立訓練」「日中一時支援」
- (2) 第二種社会福祉事業 木の香自立支援センター
「就労継続支援A型事業」「宿泊型自立訓練」「短期入所」
- (3) 第二種社会福祉事業 木の香園就労支援センター
「就労継続支援B型事業」
- (4) 第二種社会福祉事業 木の香らんど
「就労継続支援B型」「地域活動支援センターⅢ型」
- (5) 第二種社会福祉事業 木の香園相談支援センター
「特定相談支援」「指定一般相談支援」「指定障害児利用支援」
「委託相談支援」
- (6) 第二種社会福祉事業 木の香園児童支援センター
「放課後等デイサービス」「日中一時支援」
- (7) 第二種社会福祉事業 木の香ほーむ
「共同生活援助」「短期入所」

法人本部

(1) 理事会実施状況

年間9回開催し議案の審議、協議を行うとともに理事長及び本部長の業務執行状況について報告を行った。

(理事会での審議事項等参照)

開催状況

- 第1回 平成29年4月25日(火)
- 第2回 平成29年6月5日(月)
- 臨時会 平成29年6月23日(金)
- 第3回 平成29年8月24日(木)
- 第4回 平成29年10月24日(火)
- 第5回 平成29年11月27日(月)
- 第6回 平成30年1月12日(金)
- 第7回 平成30年2月21日(水)
- 第8回 平成30年3月27日(火)

(2) 評議員会開催状況

年間4回開催し議案の審議を行った。

(評議員会での審議事項等参照)

- 第1回 平成29年6月23日(金)
- 第2回 平成29年9月13日(水)
- 第3回 平成29年12月13日(水)
- 第4回 平成30年3月27日(火)

(1) 職員の資質・専門性の向上

研修計画に基づき法人内研修、施設内研修、派遣研修を行い職員の資質向上を図った。

(2) リスク管理の強化

消防署の指導のもと、各事業所で年2回の避難訓練を行った。

防災マニュアルの策定を行った。

利用者の送迎や職員の業務中の交通事故を防止するための安全運転の研修を行った。

(3) 将来を見つめた組織運営

第2期5カ年計画に基づき事業の促進を図った。

第2次5カ年計画が平成29年度で終了することに伴い平成30年度から34年度までの第3次5カ年計画の策定を行った。

(4) 新たな事業の展開を図るための施設の設置や老朽化に伴う施設設備の改修・更新

雨漏りをしていた就労支援センター及び道海島のグループホームの修理を行った。

自立支援センターの駐車場を確保するために白線を引き駐車スペースの確保を行った。

(5) 組織の円滑な運営を図るために組織運営基盤の強化

法人運営、生活介護事業、就労継続支援A型事業、地域生活支援事業、児童発達支援事業、グループホーム事業の運営を学ぶため次の法人を視察し研修を行った。

視察日 平成29年8月24日から25日

視察先 社会福祉法人 菊愛会
社会福祉法人 高森寮

④重度障害者のグループホーム事業を行うための用地の取得を行った。

所在 大川市大字鐘ヶ江 667 番 2

大川市大字鐘ヶ江 660 番 1

(6) 健全な組織運営を図るための財務監理

道海就労継続B型、北古賀就労継続B型、北古賀地域活動支援センター、でいさーびすI・三、建設会計の施設整備等積立資産に積立を行い財政基盤の強化を図った。(積立の内訳 参照)

(7) 社会福祉法人としての適正な運営を図るための取組

法人運営規程、労務関係規程などの整備を行った。

各事業所の運営状況を把握するため、理事・監事による事業所視察を3回行った。

(8) 地域福祉の推進

中学生の職場体験の受入れ、学生の実習の受入れを行った。

施設の運営方針や取り組みについての理解を深めてもらえるよう保護者会を開催し意見交換を行った。

地域社会が抱えている問題を解決するための貢献を目的に地域支援事業実施要項による3件の助成を行った。

理事会での審議事項

開催	理事会審議事項及び協議事項
第1回	協議事項 1 社会福祉法人大川市福祉会の役員改選について 2 その他
第2回	議案 1 社会福祉法人大川市福祉会平成28年度事業報告について 2 社会福祉法人大川市福祉会平成28年度決算について 3 社会福祉法人大川市福祉会平成28年度財産目録について 4 社会福祉法人大川市福祉会理事・監事候補者について 5 社会福祉法人大川市福祉会評議員会の開催について 6 社会福祉法人大川市福祉会木の香園児童支援センターの営業時間の変更について 協議事項 職員(保育士)採用について 報告・連絡・事項 1 職務執行状況報告について 2 平成29年度事業別利用者状況について 3 収支状況報告について

	4 その他
臨時	議案 7 社会福祉法人大川市福社会理事長の選定について 8 社会福祉法人大川市福社会業務執行理事の選定について
第3回	議案 7 社会福祉法人大川市福社会積立資産の取り崩しについて 8 社会福祉法人大川市福社会平成29年度第1次補正予算について 9 社会福祉法人大川市福社会用地の購入について 10 社会福祉法人大川市福社会日中一時支援事業の新規申請について 11 社会福祉法人大川市福社会評議員会の開催について 協議事項 職員採用について (施設長1名、保育士2名、看護職員1名) 報告・連絡事項 1 職務執行状況報告について 2 平成29年度事業別利用者状況について 3 収支状況報告について 4 その他
第4回	協議事項 1 理事・監事の事業所視察について 2 実施設計業務委託について 理事長及び本部長の職務執行状況報告 1 苦情解決第三者委員の任命について 2 平成29年度指定障害者福祉サービス事業者等への実地指導について 3 土地売買について 4 グループホーム補助採択申請の手続きについて 5 自動車の損害保険について 6 大川市障害者地域生活支援事業者登録申請について 7 エレベーターの業務委託契約の変更契約の締結について 8 相談事業に係る派遣会社からの派遣職員の派遣期間の延長について 9 平成29年度事業別利用者状況について 10 収支状況報告について
第5回	議案 12 車の寄付について 13 社会福祉法人大川市福社会平成29年度第2次補正予算について 14 社会福祉法人大川市福社会木の香園グループホーム用地の造成の設計と建築設計の業者選定について 15 評議員会の開催について 理事長及び本部長の職務執行状況報告 1 産前休暇承認について

	<ul style="list-style-type: none"> 2 地域支援事業助成金について 3 木の香園就労支援センター雨漏り修理について 4 木の香ほ一むⅢ雨漏り修理について <p>協議事項</p> <p>社会福祉法人大川市福祉会第3期5カ年計画（案）について</p> <p>報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 職員採用の実施について 2 平成29年度事業別利用者状況について 3 収支状況報告について 4 その他
第6回	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> 16 社会福祉法人大川市福祉会第3期5カ年計画について 17 社会福祉法人大川市福祉会木の香園グループホーム用地の造成の設計と建築設計の業務委託契約について 18 社会福祉法人大川市福祉会有期契約職員等就業規則の一部改正について <p>理事長及び本部長の職務執行状況報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 職員採用について 2 産後休暇及び育児休暇の承認について 3 社会福祉法人大川市福祉会服装身だしなみ基準について <p>報告・連絡事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 職員採用試験について 2 平成29年度事業別利用者状況について 3 収支状況報告について 4 その他
第7回	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> 19 福祉医療機構借入について <p>報告・連絡事項</p> <p>その他</p>
第8回	<p>議案</p> <ul style="list-style-type: none"> 20 積立金の積み立てについて 21 社会福祉法人大川市福祉会平成29年度第3次補正予算について 22 社会福祉法人大川市福祉会会計の廃止について 23 社会福祉法人大川市福祉会役員等の費用弁償規程の一部改正について 24 社会福祉法人大川市福祉会経理規程の一部改正について 25 社会福祉法人大川市福祉会常用職員給与規程の一部改正について 26 社会福祉法人大川市福祉会有期契約職員賃金規程の一部改正について 27 社会福祉法人大川市福祉会育児・介護休業等に関する規程の一部改正について

28	社会福祉法人大川市福社会被服貸与規程の一部改正について
29	社会福祉法人大川市福社会利用者被服貸与規程の一部改正について
30	社会福祉法人大川市福社会平成30年度事業計画について
31	社会福祉法人大川市福社会平成30年度収支予算について
32	社会福祉法人大川市福社会本部長の任命について
33	社会福祉法人大川市福社会評議員会の開催について
報告・連絡事項	
1	予備費の流用について
2	平成29年度事業別利用者状況について
3	収支状況報告について
4	その他

評議員会での審議事項

開催	審議事項
第1回	議案 1 社会福祉法人大川市福社会平成28年度事業報告について 2 社会福祉法人大川市福社会平成28年度決算について 3 社会福祉法人大川市福社会平成28年度財産目録について 4 社会福祉法人大川市福社会理事・監事の選任について
第2回	議案 5 社会福祉法人大川市福社会平成29年度第1次補正予算について
第3回	議案 6 社会福祉法人大川市福社会平成29年度第2次補正予算について
第4回	議案 7 社会福祉法人大川市福社会平成29年度第3次補正予算について 8 社会福祉法人大川市福社会会計の廃止について 9 社会福祉法人大川市福社会役員等の費用弁償規程の一部改正について 10 社会福祉法人大川市福社会平成30年度事業計画について 11 社会福祉法人大川市福社会平成30年度収支予算について

3. 重要契約事項の報告

契約日	契約内容	契約金
H29.4.1	大川市障害者地域活動支援センター	6,000,000
H29.4.1	大川市障害者相談支援事業委託契約	2,760,000
H29.9.5	グループホーム用地境界確定測量、土地分筆登記、農地転用申請業務の委託契約	985,921
H29.10.11	グループホーム用地の売買契約	23,029,696
H30.1.8	グループホーム建築実施設計書作成業務委託契約	2,430,000
H30.1.8	グループホーム用地の土地造成の設計業務委託契約	378,000

H30.1.29	木の香園自立支援センター自転車置き場築造工事	1,053,000
H30.3	日産シビリアン売却	130,000

10万以上

補助金等

日付	内容	金額
H29.12.22	日本財団から自動車の補助	1,450,000
H30.3.21	大川医仁会から自動車の寄附	4,000,000

I 多機能型事業所 「木の香園生活支援センター」

1. 生活介護

(1) 事業運営実績

①生活介護

利用定員	30名
利用登録者	39名 (前年度 40名)
年間延べ利用者数	7,470名 (前年度7,373名)
平均利用者数	26.7名 (前年度26.5名)
退所者数	3名 (退所理由:他サービス利用、利用終了など)

※29年度介護給付費収入	65,156,006円
利用料収入	2,990,204円
<u>処遇改善加算</u>	<u>2,740,920円</u>
	67,896,926円
	(前年度 67,700,120円)

②日中一時支援 (障害者対象)

利用登録者	5名 (前年度5名)
平均利用者数	0.1名 (前年度0.2名)

※29年度介護給付費収入	186,940円
<u>利用料収入</u>	<u>11,200円</u>
	198,140円
	(前年度 286,180円)

(2) 事業運営状況

①個別支援会議 延べ 13回 (実人数 13名)

- ・利用者・家族の生活支援ニーズアセスメントをもとに、希望する生活スタイルにできるだけ近づける支援を行うことに努めた。
- ・新規利用者には、ご本人・保護者・行政・支援関係先の情報をもとに、支援計画の作成を行った。支援にあたっては、スタッフ一人の考えで支援を行うのではなく、スタッフ全員が共通認識できるよう策定会議を行い、情報交換を日々行いながら、個別支援計画に基づいた支援を実施した。
- ・支援計画が適性に実践されているか、継続的なモニタリングを行うと共に、定期的に本人、家族との面談を行い、安心して生活できる施設づくりを目標に支援を実施した。

②生活支援・介護支援

- ・平日に小グループでの園外活動を多く設定し、個別のニーズに応じた手厚い支援を心掛けた。又、平日に園外活動を行う事で平日に通所している利用者の方も多く参加する事が出来た。
- ・外部講師やボランティアを招いて活動の充実を図った。
- ・2カ月に1回木の香カフェを設定しおやつを提供を行った。
(ケーキやプリン等)
- ・職員間での情報交換を行い、支援に何が必要か検討しながら関わ

りを行った。

- ・短期入所利用予定者の情報共有を自立支援センターと連携を図り安心して利用が出来るよう努めた。

③リハビリテーション

- ・月に1度、理学療法士によるリハビリ訓練を施した。
- ・食事前の健口体操を継続する事で、嚥下機能の維持を図った。
- ・棒体操や軽体操を実施し身体機能の維持に努めた。
- ・利用者の身体機能を把握し、レクリエーションや個別リハビリを行う事で身体機能の維持に努めた。
- ・他機関(医療リハビリテーション)と情報交換を行い、他のリハビリ実施計画書を把握し、訓練内容の充実を図った。
- ・リハビリ会議に出席し他機関(医療リハビリテーション)との連携や情報共有を行った。
- ・専門職以外の支援員がリハビリの内容や可動域運動の学習を行い、支援員によるアソビテーションを実施した。
- ・リハビリ実施計画書に基づき、個々の訓練が適切に行えるよう環境設定を行った。
- ・リハビリ器具(平行棒)を購入し理学療法士の指導を受けた支援員が歩行訓練を行い歩行機能の維持に努めた。

④看護

【利用者の健康管理】

- ・利用者の状態観察。(バイタル測定(毎日)、体重測定(月1回))
- ・健康診断(年1回)・歯科検診(年1回)と歯磨き指導
- ・薬の管理と服用指導。手洗い・アルコール消毒の実施
- ・水分補給の管理と促し。気管切開・胃瘻管理
- ・入浴後の軟膏処置、入浴日以外の軟膏処置、手足の点検、皮膚観察

【生活支援業務指導】

- ・看護師不在時のバイタル測定・吸引指導実施
- ・移動・リスク防止と衛生管理・感染防止の指導
- ・生活支援員が行う看護面での対応と相談について新規職員に随時指導
- ・褥瘡の処置と支援員への指導
- ・土曜日開園時の内服準備・看護指導
- ・往診時の補佐と症状報告

【医師への連絡報告と相談実施】

- ・健康課題への情報交換を家族と行い、共有を図った。また、嘱託医やかかりつけの病院と情報交換して有効に利用し家族の介護負担の緩和に努めた。

【感染予防指導】

- ・手洗い・アルコール消毒の講習会を実施
- ・感染症発症時の他機関との情報共有

・職員研修…内容（ノロウイルス・インフルエンザ）

全職員に対し適切な対応の仕方、知識習得する事で感染拡大防止に努めた。なお、現職員・新任職員に対し再認識を促した。

【その他】

・インフルエンザについて、利用者・職員にインフルエンザの予防接種を促し健康管理に努め、疑わしい時は早めの病院受診を促し、感染拡大を妨いだ。アルコール消毒と手洗いの徹底しマスク着用に努めた。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

①苦情受付…1件

支援中の体調管理について家族より苦情相談があった。苦情内容としては、差し歯のヒビが入っていたので詳しく聞きたいとの事だった。相談発生時の前日から短期入所を利用していた為、両事業所から状況の情報収集を行い確認するも、いつヒビが入ったのか不明であった。これにより本人に怪我はなかった。今後、注意をしながら観察を行っていく事を伝えたとところご家族も納得された。

②事故報告

【送迎車の自損】 2件

事故の内容は、朝の迎えの際、自宅周辺でUターンをし生け垣に接触した。後方確認が不十分だった。

もう1件は、迎え時、バッグで敷地内に止めようとした際に左間口の岩に接触した。

【破損】 4件

利用者が精神的に不安定となり、自傷行為が生じた際に、壁等に頭を強く叩きつけ破損した。他利用者に影響がないように距離を保ち、本人が落ち着くまで見守った後に水分補給を促した。本人に怪我はなく、保険の発生はなかった。壁の破損に関しては出来る範囲で職員が修復した。

(5) 成果と課題

①成果

・土曜日開園が定着してきているが、まだ平日のみに利用される方も多い。多くの利用者に園外活動に参加してもらい、余暇活動の充実を図ることを目的に、平日に園外活動を設定し、実施した。また、少人数グループで園外活動を行ったため、手厚い支援体制を確保した状態で活動出来た。

- ・支援員が送迎を行う事により、直接保護者（家族）と顔を合わせる事が出来た。日中の様子やご家庭での様子を話す事で、家族との信頼関係の構築を図った。
- ・毎日の終礼会議（ミーティング）で利用者一人一人の活動の様子や身体状況を把握し、支援員間での情報の共有を図った。それにより利用者の身体面や精神面での変化に気付き、個別ニーズに沿った支援を行う事が出来た。
- ・消防計画に基づいて定期的に避難訓練を行う事で、様々な場面を想定し、安全な避難誘導が出来るように支援員の知識向上に努めた。

②課題

- ・利用者の心身の状況の変化に合わせて、個別支援会議を開催し、再アセスメントとニーズの再整理、個別支援計画の見直しを定期的に行い、支援の質の向上を図る。
- ・多様な障害程度の利用者一人一人が安全・安心・快適に過ごせる環境整備を進める事で多くの刺激を苦手とする利用者にとっても安心して過ごせる場所の工夫、確保を目指す。
- ・看護師の配置により、医療的ケアが常時必要な方の受け入れ体制の確保を進める。
- ・より良いサービスが提供出来るよう職員に対する支援スキルの向上を目的とした研修等を実施する。

2. 就労移行支援

(1) 事業運営実績

利用定員	15名	
利用登録者	4名	(うち就労アセスメント1名)
年間延べ利用者数	370名	(前年度760名)
平均利用者数	1.52名	(前年度3.04名)
退所者数	1名	(就A利用1名)

※ 29年度訓練等給付費	2,791,790円
利用料収入	105,480円
<u>処遇改善加算</u>	<u>187,020円</u>
	3,084,290円
	(前年度6,046,240円)

(2) 事業運営状況

①個別支援会議

- ・支援計画を基に必要な支援や現在の状況等について、本人や家族、関係機関との情報共有を図った。

②訓練内容

- ・作業訓練、清掃訓練、面接訓練、挨拶訓練、体力づくり

※公共施設（城島げんきかん）を利用したトレーニングを実施。

③就労支援

- ・職場実習… 2回 (永寿会デイサービスセンター、木の香園自立)
- ・職場見学… 4回
(ブリジストンスポーツ・楽天カード・石橋工業・西日本住機)
- ・職場体験… 1回 (鐘ヶ江郵便局)
- ・接遇マナー講座 (外部講師)
- ・就職者報告会…就職者3名 利用者2名参加
- ・障害者就職準備講座… 2名 (久留米リサーチパーク)
- ・障害者雇用促進面談会… 1名 (久留米リサーチパーク)
- ・他機関連携…ハローワーク訪問2回、 障害者就業・生活支援センター「ぼるて」「ほっとかん」
- ・就職者への定着支援…

本人や就職先の担当者に対して電話にて、状況の確認、困りごとや不安なことがないか聞きとりを行った。また、直接、会社へ訪問し仕事内容や作業の様子を確認した。ハローワークや障害者就業・生活支援センターの担当者との情報共有も随時行った。就職者報告会では利用者に対して仕事の話や給料の使い方などを話していただいた。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

- ①苦情受付 0件
- ②事故報告 1件

事故の内容は、身体に障害がある方がパイプ椅子に座っていたが立ち上がろうとした際、踏み出した右側(健側)が自身の左側(患側)をふみ転倒した。

(5) 成果と課題

①成果

- ・職場実習や体験を経て、就労継続支援A型事業所へ1名が就職した。
- ・就労アセスメントを実施した。特別支援学校高等部3年生の利用があり、アセスメントの結果、卒業後に就労継続支援B型を利用することとなった。

②課題

- ・利用定員15名に対し、利用登録4名であり、まだ定員を満たしていない状況である。他機関(障害者就業・生活支援センター、ハローワーク、学校)との連携強化し、新規利用者確保に努める。また、職場実習先の開拓と確保を行っていく。
- ・利用者の状況に合わせて再アセスメントを実施する。個別のニーズ

をとらえ、状況に合わせて支援会議を開催し、就労移行の支援を展開していく。

3. 自立訓練（機能訓練）

(1) 事業運営実績

利用定員	6名
利用登録者	3名（前年度2名）
年間延べ利用者数	184名（前年度173名）
平均利用者数	0.75名（前年度1.5名）
退所者数	1名（退所理由：契約終了の為）
※ 29年度訓練等給付費	1,013,986円
利用料収入	61,534円
<u>処遇改善加算</u>	<u>58,120円</u>
	1,133,640円
	（前年度1,038,460円）

(2) 事業運営状況

①個別支援会議

- ・利用者個人のニーズに沿った支援をするために個別支援計画に基づいた支援を実施した。

②日常生活支援

- ・リハビリ実施計画書に基づき一日のプログラムを設定し、支援内容の充実を行った。また、3ヶ月毎の評価と見直しを行い利用者満足度の向上に努めた。
- ・他機関（医療的リハビリ）訓練の見学や情報交換を細かに行った。
- ・園外活動（ドライブ等）のレクリエーションに参加し気分転換を図り意欲向上に努めた。

③看護

利用者の健康管理を目的に次の事を行った。

- ・利用者の状態観察（バイタル測定、体重測定 月1回）
- ・入浴後の軟膏処置、軟膏処置
- ・感染予防指導
- ・手洗い・歯磨き指導
- ・利用者・家族からの健康相談
- ・リハビリ実施計画書の策定にあたって、医療面での助言・指導

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

- ①苦情受付 0件
- ②事故報告 0件

(5) 成果と課題

①成果

- ・個別支援計画の内容に沿って個別の機能訓練を実施した。機能訓練器具（平行棒）を使用し理学療法士から指導を受けた職員が歩行訓練を実施し訓練内容の充実を図った。利用者の訓練状況・生活状況等を利用者・家族と情報を共有しながら身体機能の維持・向上に努めた。
- ・電話や会議等を通じて相談機関や医療機関との連携を図り支援の充実に努めた。
- ・医療機関主催の担当者会議に参加し情報収集と情報交換を行いより充実したプログラムの提供が出来た。

②課題

- ・定員6名に対し、登録者3名のため、新規利用登録者の確保するため、充実した訓練プログラムの提供と関係機関との連携を強める。
- ・自立訓練指導員の支援スキル向上のため、内部研修及び外部への研修参加、他施設の見学や実習の取り組みを検討する。
- ・個々の課題に合わせて実施できる訓練器具や設備の充実を図る。

I 多機能型事業所 「木の香園自立支援センター」

1. 就労継続支援 A 型事業

(1) 利用状況

①就労継続支援 A 型

利用定員	20名	
利用登録者	12名	(前年度12名)
年間延べ利用者数	2,872名	(前年度2,238名)
平均利用者数	11.1名	(前年度8.8名)
退所者数	1名	(退所理由:など)

※29年度訓練等給付費収入	15,647,680円
処遇改善加算	851,060円
<u>利用料収入</u>	<u>732,290円</u>
	17,231,030円
	(前年度 13,311,380円)

②就労事業収入

大川市高齢者等配食サービス事業

4,683食 3,043,950円

一般配食 5,325,327円

③法人給食事業

・業務委託費 11,664,000円

・給食費 12,211,526円

(2) 運営状況

①就労支援事業

- ・法人内給食業務の受託
- ・大川市高齢者等配食サービス事業の受託
- ・大川市役所での弁当販売（毎週水曜日）
- ・地域の会合やイベント関係での弁当注文の受注

②個別支援会議

利用者、家族、相談支援事業所などの関係機関が参加し、事業所において個別支援会議を実施。

③支援内容

- ・毎日、作業後に振り返りを行い、その日の作業状況の確認、作業ミスの確認や訂正等を行い、次の日の作業で改善することが出来るよう支援した。
- ・利用者の状況に合わせて、個人毎に担当する作業を分担したり、主として担ってもらった作業を振り分けたりし、それぞれの目標設定を行い、作業に取り組んだ。
- ・市役所販売や配達を通し、あいさつや態度など社会的マナーの確認を行った。

④保護者懇談会

- ・保護者懇談会を3月に実施した。保護者の参加は3名であったが、日々の就労支援の報告及び、支援状況について説明を実施した。利用者は業務として、昼食の弁当を調理してもらい、説明会終了後に保護者及び利用者、職員と会食を行った。

⑤給食の提供

- ・委託を受けている給食事業においては、個々の身体状況に合わせた食事の提供を継続して行い、食の安全を確保した。
- ・年間で、セレクト給食、行事食、郷土料理食を4回ずつ提供し、食の楽しみを感じて頂く工夫を行った。
- ・法人内各事業所への手作りおやつ提供。季節感のあるおやつを手作りし、提供した。
- ・法人内のグループホームに6月より配食提供した。

⑥配食の提供

- ・配食サービス時には、利用者へ必ず声かけを行い、安否確認を行った。安否確認が出来ない場合は、安否確認マニュアルに基づき関係機関へ連絡する等、適切な対応を速やかに行った。
- ・介護予防計画に基づくサービス担当者会議へ参加し、食事の状況やその他のサービスの利用状況を確認した。また、必要に応じて関係機関（地域包括支援センター等）と連携し、食事面のサポートを行った。

⑦一般配食

- ・大川市役所販売・福祉施設等の配食の提供を行った。
- ・季節食・行事食については、食事の内容だけでなく、お品書きや手作り箸袋などを作成し雰囲気作りにも力を入れた。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

①苦情受付・・・1件

②事故報告・・・0件

(5) 成果と課題

①成果

- ・利用者の獲得に向けて関係機関との連携を図った。
- ・大川市高齢者等配食サービス業務委託に係る公募型プロポーザルへ参加して受託を行なった。
- ・地域の行事やイベント等から注文を受け、弁当の提供を行った。
- ・利用者の障害特性を把握し、特性に合った支援内容を検討しながら日々の支援の中に組み込み評価した。
- ・給食会議を月1回実施。各事業所の給食委員とともに、食事環境の

確認、献立等の検討を行った。各事業所の利用者及び職員へ安心安全な食事の提供に努めた。

- ・利用者の関係機関との連携を密に行い、作業状況の改善や、生活面でのサポートも実施した。
- ・利用者と個別の課題を確認し、調理技術向上のための取り組みを行った。
- ・園内を一日2回消毒することで、インフルエンザの感染拡大防止につなげた。
- ・自転車通所して頂く利用者のために自転車築造工事を行なった。また、風のため自転車が倒れるためサイクルラックを取付工事を行なった。
- ・職員駐車場のライン、縁石工事を行なった。

②課題

- ・様々な調理法へ対応できる体制とシステムの構築
- ・衛生マニュアルに沿った調理技術の習得と統一化
- ・休日の注文受注への対応。職員体制及び利用者の出勤状況の確認
- ・糖尿病食、減塩食等への徹底した調理対応

2. 宿泊型自立訓練事業

(1) 利用状況

利用定員	10名	
利用登録者	10名	(前年度10名)
年間延べ利用者数	3,154名	(前年度3,132名)
平均利用者数	8,64名	(前年度8.5名)
退所者数	6名	

(退所理由：地域移行、在宅)

※29年度訓練等給付費	16,243,680円
処遇改善加算	925,860円
<u>利用料収入</u>	<u>5,344,536円</u>
	22,514,076円
	(前年度 22,402,867円)

(2) 運営状況

①個別支援会議

利用者、家族、相談支援事業所などの関係機関が参加し、事業所において個別支援会議を実施

②生活訓練

- ・居住スペースの清掃やゴミだし等、当番を決め、実施した。清掃の仕方や手順など職員と一緒に確認し、行った。
- ・外出の手段について、一緒に確認を行い、安全で安心した外出が出来る様支援した。

- ・日常生活能力の維持、向上のため、個別に声かけ等を行い、生活訓練を実施した。

③安全管理

- ・火災時の自動通報装置及び警備会社との委託契約による防犯対策等、安全管理の体制整備を行った。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 苦情受付、事故報告

- ①苦情受付・・・0件
- ②事故報告・・・1件

(5) 成果と課題

①成果

- ・平成29年度は6名の方が、宿泊型自立訓練を経て、地域生活（グループホーム）へ移行した。利用者の希望を確認しながら、見学や体験を調整し、実施した。体験で今後の生活のイメージを具体化できたため、スムーズな移行が出来た。
- ・地域移行に関しては、相談支援事業所等の関係機関と連携し、支援を行った。
- ・事業所内でのレクリエーションは利用者の方が、主体的に企画し、意見を出し合いながらそれを反映させることが出来た。行事自体もそれぞれ役割を担ってもらうなど主体的参加が出来た。
- ・園内を一日2回消毒することで、インフルエンザの感染拡大防止につなげた。

②課題

- ・生活訓練の支援内容の充実。個別の生活課題への取り組みを充実させていく。
- ・利用者のニーズの把握と、社会資源との結びつきの強化
- ・職員研修等の実施により、支援の質の強化に努める。

3. 短期入所

(1) 利用状況

利用定員	2名	
利用登録者	64名	(前年度50名)
年間延べ利用者数	771名	(前年度734名)
平均利用者数	2.11名	(前年度2名)
※29年度介護給付費	3,996,236円	
処遇改善加算	228,960円	
<u>利用料収入</u>	<u>1,053,084円</u>	
	5,278,280円	
	(前年度 4,831,370円)	

(2) 運営状況

①生活支援

- ・一人一人の介護状況に応じて、必要な介護を提供し、食事、排泄等の生活支援を実施した。
- ・自立訓練のための利用では、自分で出来る事は自分でってもらうよう利用者へ伝え、今後の生活も想定しながら支援した。

②余暇活動支援

- ・外食や施設内での会食を通じ、利用者・職員間の親睦を深める機会を設けた。
- ・長期休暇中（年末年始・クリスマス等）に短期入所を利用される利用者の方へ、季節の行事に合わせた食事の提供を行った。

(3) 行事報告

別紙行事報告書参照

(4) 成果と課題

①成果

- ・障害者、障害児、両方の受け入れを継続して行う事ができ、在宅で生活している利用者及び家族のレスパイトケアが行えた。
登録者数も増加し、毎月の利用人数も増加した。
- ・緊急的に短期入所が必要な方の受け入れを行うことが出来た。
関係機関と連携し、緊急の受け入れもスムーズに行う事が出来た。
- ・園内を一日2回消毒することで、インフルエンザの感染拡大防止につながった。

②課題

- ・重度障害のある利用者の受け入れにおいて、質の高いサービスを提供できるよう、支援員及び夜勤者の介護技術向上
- ・様々な障害に対応できる体制の強化。安全、安心して利用してもらえる環境の整備

II 就労継続支援B型事業所「木の香園就労支援センター」

1. 利用状況

利用定員	40名	
利用登録者	44名	(前年度43名)
年間延べ利用者数	10,134名	(前年度9,812名)
平均利用者数	38.8名	(前年度38.1名)
退所者数	1名	(前年度5名)

※29年訓練等給付費収入 71,511,300円

利用料収入 2,775,810円

処遇改善助成 3,720,010円

78,007,120円

(前年度 74,221,460円)

2. 事業運営状況

(1) 生産活動

- ・作業は、各利用者が持ち合わせている能力を活かせる場面や行程を設定し、作業に関わる充実感や達成感を感じられるようモチベーションの維持、向上に繋げるように努めた。
- ・一連の日課表に乗れなかった方には、個別の対応を行い作業環境整備（パーテーションの使用・個室対応）など、柔軟な対応を行った。
- ・アルミ缶回収BOXの設置場所を新規で確保。収益の拡大に繋げ、利用者工賃で還元した。

① リサイクル班

- ・アルミ缶回収（ビール瓶、一升瓶）、アルミ分別
- ・アルミ工場納品・アルミシュレット分別

② 下請班

- ・ごぎ巻き、ゴロピタシート、消臭イ草、こたつ天板シート
- ・コンポスト材料作り、エコバック（環境課）
- ・段ボール箱作り・ギフト箱作り
- ・ダイレクトメールチラシ折り
- ・カーボード、スライドデカクリップ、糸きり
- ・つまみ検品、丁番検品、
- ・にんにく種割、にんにく薄皮剥き
- ・アスパラ紙折り

③ 自主製品販売

- ・もみ殻くん炭、竹炭オブジェ、竹性製品（はし、へら）門松、手作り石鹸、布製のし袋

④ 施設外の作業

- ・農作業：アスパラ肥料まき、にんにく収穫
- ・木工所：段ボール組立
- ・大川市環境課：廃プラスチック分別

⑤ 製品販売

- ・くるるん夢市場 ・木の香マラソン・大川木工まつり・大川TERR

AZZA

- ・福祉のつどい・あじ彩館2箇所

⑥受注活動

- ・安定的な生産活動を提供するために、受注先の開拓を行った。

平成29度は賞与3回支給を行った。

29年度工賃総支給額 10,209,525円

平均工賃 20,246円

※29年度就労収入 11,113,376円

(前年度 9,943,686円)

(2)生活支援

①日常生活支援

- ・地域との関わり、就労活動の紹介を目的に木工祭、木の香マラソン、福祉のつどいで対面販売の実施を行った。
- ・近隣住民の方と協力し、神社清掃を行った。
- ・就労訓練、生活支援の為、建物の清掃活動並びに生産活動に利用した被服の洗濯訓練を実施した。
- ・利用者の日中活動、生活面の充実と考え、社会参加を意識し、利用者特性に応じた活動に取り組んだ。
- ・調理実習では、利用者それぞれに役割を与えることで自立に向けて必要な自立支援を行った。
- ・ハンドマッサージ、訪問カットを実施した。

(3)給食の提供

- ・献立内容は、給食会議を実施することにより利用者の意見や希望も取り入れ、バランスの良い食事提供ができるように配慮した。また、嚥下体操を食事前におこない、誤嚥の予防を図った。
- ・給食会議を毎月1回行った。

(4)個別支援計画

①個別支援会議 延べ44回(実人数 44名)

- ・サービス利用提供の基本となる個別支援計画については、本人の長所を活かすために、本人(家族)のニーズや要望を踏まえアセスメントやモニタリングなどを行い計画作成を行った。個別支援計画書に基づき家族参加の日帰り旅行、餅つき、運動会を実施した。

(5)その他

- ・送迎時等、ご家族と顔をあわせる際には、交流を図り信頼関係の構築に努めた。
- ・親子ボリリング大会を実施し、家族との交流を深めた。
- ・利用者に体調変化が見受けられた場合は、早期に保護者に連絡を取り適切な通院内服管理を行った。
- ・地域行事へ積極的に参加した。
- ・アルミ缶回収の御礼として道海島小学校へ卒業記念品の贈呈を行った。
- ・保護者会を開催し、意見交換などを行った。
- ・ときめきスポーツ大会に参加し、スポーツを通じ社会参加の機会を設け他施設との交流を図った。

3.行事報告

別紙行事報告書参照

4.成果と課題

(1) 成果

- ・就労継続支援事業で施設外支援を実施することにより利用者の仕事への意欲向上につなげた。
- ・下請け作業及び新規事業の獲得を行った。
- ・作業場の環境・配置を考慮することにより一人ひとりの集中力が増した。
- ・前年度に比べて、利用者の作業意欲向上したこともあり就労収入が大幅にアップすることが出来た。
- ・新規自主製品では、新たな製品作りに取り組み販売を行った。
- ・生活支援の充実に努め、本人の希望、家族の意向を確認しながら行事やレクリエーションを積極的に実施した。
- ・木工祭、福祉のつどい、木の香マラソンへの出場、出店を行い木の香園のPR・交流に積極的に努めた。
- ・毎週月曜日、散歩を実施しながら道海島地区清掃活動の取り組みを行った。
- ・施設の改修工事については、会議室のエアコン取替工事老朽化した厨房配管工事、厨房排気扇工事、天井の雨漏れ及び天井張替修理を完了し、快適な環境に整備することが出来た。
- ・災害に備え備蓄品の準備を行った。また、防犯対策として“さすまた”を購入し、使用方法などを職員間で共有した。
- ・園内を一日2回消毒することで、インフルエンザの感染拡大防止につなげた。

(2) 課題

- ・利用者登録が増えたため、作業場増築の検討
- ・施設の老朽化により、随時修繕が必要な個所の修理
- ・アルミ回収量が減少しているため今後、回収量を増やす。
- ・利用者の方に対して、高い工賃を支払うためには、安定した作業量を確保が必要。そのために高い生産性・品質、納品厳守を徹底する。
- ・作業生活を通じて本人が望む生活を維持出来るようにし、高賃金を目指すとともに、時間をかけて一步一步育成し一般就労を目指す。

Ⅲ 就労継続支援 B 型事業所（就労継続支援 B 型）「木の香らんど」

1. 事業運営実績

利用定員	20名
利用登録者	27名(前年度24名)
年間延べ利用者数	4,617名(前年度3,450名)
平均利用者数	17.6名(前年度13.0名)
退所者数	5名(前年度1名)

※29年度介護給付費収入	35,949,890円
利用料収入	995,997円
処遇改善加算	1,869,410円
合計	38,815,297円
	(前年度 27,630,140円)

2. 事業運営状況

(1) 就労支援事業

①下請作業

(成果に関しては5.成果と課題の成果④参照)

- ・家具部品の組み立て等・シート切り・シュレット分別
- ・チラシ印刷・みかんや甘夏の皮むき・にんにく作業
- ・コーヒー出荷・自動車部品の加工・家具の点検
- ・アスパラ畑作業・ゴザ・い草加工品・引っ越し作業 等

②委託作業・施設外就労

- ・清掃作業・花壇整備業務・廃プラスチック分別作業

③販売

木工祭り、ふくしのつどいでの販売 随時実施

④平成29年度就労支援事業収入 6,131,965円

平成29年度利用者工賃支給総額 3,493,160円

平成29年平均工賃 12,384円 (前年度11,995円)

(参考) 時給換算 167円/時給

18,870円/月額

⑤支援内容

- ・毎日の職員会議で利用者の生活態度、作業内容、指示の工夫などの協議を行った。さらに、感染症の流行時期には毎日体温を測り、健康状態の把握を行った。
- ・業務会議の中で、個別ケース検討、年に2回の工賃評価査定会議を行った。

(2) 生活支援

①個別支援会議 開催回数 42回

本人、家族、関係機関の参加を得て年2回(10月・3月)

個別支援会議を開催。会議では相談支援事業所にも参加して

頂き、本人のニーズを踏まえ、就労支援に加え、生活支援にも力点を置き、家族や関係機関も含めて検討している。会議内容（本人や家族の希望・関係機関の意見）を職員会議で共有し、支援の統一を図っている。

②日常生活支援

日常生活支援として金銭管理支援、個別面談による相談支援を実施した。また社会のルールの確認や異性との付き合い方や性的な問題に対し支援方法の検討など、職員で協議を重ねている。

③再犯防止プログラム

性加害を繰り返す利用者に対し、再犯防止・地域生活の継続を目的とし、再犯防止プログラムを実施した（1セッション1時間とし、職員2名(男女1名ずつ)で対応を行う）。プログラムの内容としては、社会のルールや男女の距離、人の気持ちを考えること(道徳の教科書使用)を職員と一緒に検討し、本人の再犯防止への意識を高めることを行った。

④保護者会

6月28日に保護者会を開催した。保護者4名の参加があり、日頃の支援の報告を行うとともに、保護者同士が普段気になっていることや思っていることの確認を行った。

(3) その他

①職員の資質向上

職員の資質向上のため、「ストレスマネジメント」、「精神障害者のリカバリー」、「薬物依存者への支援」、「事業所職員に求められるもの」、「虐待防止」等の研修会に参加した。また、参加した職員が伝達研修を行い、研修内容を共有することで、職員の専門性の向上に努めた。さらに、職員間で定期的な事例検討を行い、支援の質の向上やスキルアップに努めた。

②地域貢献活動

地域貢献活動として、年3回開催される道守大川ネットワーク共同清掃に参加した。また生活支援体制整備事業（ドリームたぐち）に参加し、地域住民の方々と地域問題解決について検討を行った。

【参加 利用者延べ7名 職員延べ20名】

②病院・他事業所との連携

利用者のうち精神科病院に通院している利用者については、必要に応じ病院のソーシャルワーカーと連携して、通院治療状況の確認や生活支援の様子などを共有している。また、内科疾患のある利用者は病院受診に同行したり、家族や相談支援事業所と連携して、本人の病状悪化を予防するために経過観察や面談を行った。

3. 行事報告

別紙行事報告書参照

多くの利用者が参加出来る様に平日に行事を開催した。バスハイクを2回、一泊旅行を1回、ぶどう狩りや初詣等季節を感じる行事を行った。来年度はその他クラブ活動（軽スポーツ・旅行・手芸）を企画・実施していきたい。さらに福精連の活動として、地域活動支援センター利用者とともに、ふれあい大会や精神保健福祉研修会にも引き続き参加をし、他事業所との交流や精神保健福祉に関しての理解を深めていく。

4. 苦情・虐待及び事故報告

(1) 苦情・虐待受付

①苦情受付 6件

職員の支援中の声掛けに関する苦情が6件あった。苦情の内容としては「職員の言い方が冷たい」「きつい」「安全面の配慮が出来ていない」「怪我するリスクがある」「運転する職員の対応が悪い」とのことであった。その都度、利用者と面談をして解決を図るとともに、職員間で共有を図り改善に努めている。また、安全面に関しては、職員が1日2回作業場所の安全確認を行っている。

※苦情に関して全て口頭による申し出。文書による回答を求められておらず、受付窓口での対応により解決している。

②虐待受付 1件

事実関係の結果、利用者の後頭部を叩く「身体的虐待」が1件あった。作業への従事を促す意味あいでも叩いてしまったことであるが、不適切なケアであることを事業全体で確認した。本人や保護者に説明・謝罪を行なうとともに福祉事務所（虐待防止センター）に通報を行い、再発防止に向けた支援内容の検討を行った。管理者等が当該職員と定期的に面談を行い、利用者との信頼関係の再構築を図った。（虐待対応に関しては書類を作成し、虐待防止センターに提出している。）

(2) 事故報告

【事故報告】 5件

事故の内容は、車両物損事故が3件(修理済み)、情報漏えいが1件、施設物品破損が1件であった。情報漏えいに関しては、利用者の確認印が必要な書類を保護者に渡す際に、他利用者の書類を渡してしまい、双方の家族に説明・謝罪を行なった。書類等を家族に渡す場合、一人ひとり専用のBOXを作り、その箱に入っているものを渡すことで再発防止に努めている。また物損破損に関しては、作業中にドアを肘で押した際にガラスに

当たり割れてしまった。利用者に怪我はなく、ガラスの修理を行った。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・三障害に対応した施設として、障害特性や疾病に配慮した個別支援を展開し、様々な関係機関と共に包括的なサービスの提供を行った。
- ・利用者への支援を充実させるために、職員研修や職場外研修への参加を行い、専門的な知識の習得に努めた。
- ・就労支援については、下請作業の受注が増え、利用者工賃がアップした。
- ・不審者対応マニュアルを作成し、防犯訓練を実施した。実際に刺叉を使用した実践訓練を行った（職員が犯人役となり、実際に利用者が襲われた場合の対応を確認した）。また職員や利用者の防犯意識を高め、防犯対策の不十分な点について確認することが出来た。

(2) 課題

・利用率の改善

精神障害のある利用者の通所が安定しない現状がある。実際に3名の利用者が入院を行い、退所となった。本人の病状や生活環境の変化を捉えて、医療と福祉が連携することで安定した通所と入退院を繰り返さない支援を継続することで、利用率を改善する。

・就労支援事業の拡大

引き続き利用者工賃の向上の為に、新規事業の獲得など積極的な営業活動の展開を行う。

・利用登録者の増大

定員が20名に変更となり、利用登録者数も前年度比で5名増え、平均利用人数が定員を超えてきた。今後も登録者数を増やすことで、事業運営の安定を図る。

VI 地域活動支援センター 「木の香らんど」

1. 事業運営実績

利用定員	20名
利用登録者	6名
年間延べ利用者数	630名 (前年度445名)
平均利用者数	2.37名 (前年度1.68名)
退所者数	4名 (前年度0名)
利用者の主たる障害	
精神障害 (身体障害、発達障害、知的障害の方若干名)	
※29年度大川市補助金	6,000,000円
利用料収入	<u>52,890円</u>
合計	6,052,890円
	(前年度 6,072,170円)
被保護者勤労意欲助長事業	1,344,000円
	(前年度 594,000円)

2. 事業運営状況

(1) 生産活動

※希望者は就労継続支援B型利用者と共に生産活動に従事

①下請作業

(成果に関しては5.成果と課題の成果④参照)

- ・家具部品の組み立て等・シート切り・シュレット分別
- ・チラシ印刷・みかんの皮むき・にんにく作業
- ・コーヒー出荷・自動車部品の加工・家具の点検
- ・ゴザ・い草加工品・引っ越し作業 等

②販売作業

- ・イベント販売 (木工祭、ふくしのつどいなど)
- ・仕入販売 (靴下、コーヒー、庄分酢等) : 随時実施

(2) 生活支援

①行事・レクリエーション・・・別紙

②生活支援

- i) 朝礼時に体調確認、日課の確認を実施
- ii) 休憩時のお茶当番を交代で実施
- iii) 終業前の清掃活動
- iv) 面接 (本人・家族)、見守り、声掛け、関係機関情報共有

③ソーシャルスキルトレーニング (SST)

月1回対象利用者に向け、社会的スキルを習得するための SST 実施 [参加利用者2名 (延べ12回・23名参加)]

内容としては「話の切り上げ方」「会話を始め方」「仕事の頼み方」「上司のやり方が納得いかなかった時の対処」等、対人関係を

円滑に築くためのグループワークを展開し、「ここで学んだことを生活に生かしていきたい」との感想が聞かれている。

④防犯への取り組み

不審者が尋ねてきた時の職員対応マニュアルを作成し、実際に刺叉を使用した実戦訓練を行った。

(防犯訓練：1回)

(3) 関係機関連携

関係機関と連携を図りながら生活の安定につながるような相談支援を提供した。主に相談支援事業所、病院、福祉事務所等他職種連携し、本人や家族が望む暮らしの実現に向けて支援を行った。

(4) 福岡県精神障害者福祉会連合会活動

福岡県精神障害者福祉会連合会の活動として、ふれあい大会や長崎県で行われた精神保健福祉研修会に参加し、他事業所との交流や精神保健福祉に関しての理解を深めた。

(平成30年度より名称が「福岡県精神保健福祉会連合会」に変更)

(5) 被保護者勤労意欲助長事業(職場適応訓練委託)

生活保護受給者の自立支援を目的として、作業を通して、就労意欲の向上、職業能力の回復、生産活動への従事など就職に向けての支援を行った。1名が一般就労を行い、3名が福祉サービスの利用に移行、2名の利用者が訓練を継続している(継続している利用者の内、1名が福祉サービスへ移行することで合意している)。

[実利用者：6名、延べ利用者数：567名]

3. 行事報告

別紙行事報告書参照

4. 苦情・虐待及び事故報告

(1) 苦情・虐待受付

苦情受付 0件 虐待受付 0件

今年度虐待に関する相談通報等の受付はなかった。

(2) 事故報告

事故報告 0件

今年度は昨年度同様事故の報告はなかった。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・一般就労した利用者が仕事の休日に利用し、利用者同士の交流や日中活動の居場所を提供した。
- ・被保護者で長年就労していない者に対して、生活リズムの構築を図り、就労支援を行った。
- ・月に1回発達障害のある利用者に対しソーシャルスキルトレーニング

グ（SST）を実施した。

（２）課題

- ・地域活動支援センターに配属している職員が、就労継続支援事業と兼務であり、昨年度までの課題に取り組むことが出来ていない現状であるため改善を行う。
- ・来年度より、地域活動支援センターの職員体制を強化し、アウトリーチを実施するとともに支援プログラムの再構築等を図る。

Ⅶ 相談支援事業 「木の香園相談支援センター」

1. 事業運営実績

相談登録者	303件	(前年度333件)
年間実相談件数	2,537件	(前年度2,243件)
年間延べ相談件数	3,666件	(前年度3,688件)
1日平均相談件数	14.2件	(前年度14.4件)

※29年度収入

自立支援給付費	10,501,950円	(前年度 7729,540円)
補助金収入	4,920,000円	(前年度 4,920,000円)
受託事業収入	510,800円	(前年度 485,600円)
合計	15,932,750円	(前年度 13,965,390円)

2. 事業運営状況

(1) 事業方針への取り組み

- ①挨拶の励行や適切な呼称使用を意識し、利用者との信頼関係構築に努めた。
- ②地域で生活をする障害児(者)及びその家族の生活課題やサービス利用に関することについて、相談支援を提供した。
- ③大川市自立支援協議会に参加し、事業推進に努めた。
- ④サービス利用が必要な方に対して、計画を作成し、サービス担当者会議を行った。
- ⑤広報、周知活動として、民生委員総会での相談支援事業の紹介を行い、他機関訪問時に事業所パンフレットを配布した。

(2) 大川市障害者相談支援事業

①来所・訪問相談

家庭への訪問相談を実施や、事業所窓口において障害者に対する一般相談に応じた。

②個別ケア会議

福祉事務所及び関係機関との協議が必要なケースに対し、2件の事例検討を行った。

③大川市自立支援協議会

- ・全体会(年2回開催)

第4期障害福祉計画進捗状況確認、自立支援協議会活動報告、第5期大川市障害福祉計画・第1期大川市障害児福祉計画立案

- ・定例会(毎月開催)

個別ケア会議、日常生活自立支援事業導入にむけた検討会
発達障害児親の会や、福岡県発達支援センターとの情報交換、

必要な社会資源や地域課題についての検討

・事務局（不定期開催）

八女筑後・久留米圏域委託相談支援事業所情報交換会及び研修会の企画、運営。

④認定調査

・大川市認定調査委託費（大川市 61 件 414,800 円、
遠隔地 6 件 96,000 円 合計 510,800 円）

・他市町村からの認定調査依頼はなかった。

⑤大川市地域生活支援事業の受託

コミュニケーション支援事業を受託したが、依頼はなかった。

⑥その他 生活支援体制整備事業勉強会参加

(3) 指定相談支援事業（特定、障害児相談、地域移行、地域定着）

①サービス等利用計画書作成

サービス等利用計画作成件数 623 件

(内、大川市 509 名、佐賀県 59 名、その他 55 名)

サービス等利用計画作成費 8,559,020 円

(うち計画作成費 1,751,550 円 モニタリング 6,807,470 円)

サービス担当者会議実施回数 65 回

地域移行・地域定着支援については依頼がなかった。

(4) 行事報告

別紙行事報告書参照

(5) 権利擁護事業

①虐待発見・通報 5 件

委託相談及び計画相談の利用者で虐待を受けていると思われる
ケースについて、大川市福祉事務所等に通報した。

②障害児（者）の権利擁護（成年後見制度利用促進）

平成 29 年度 成年後見制度の利用を検討したケース

8 名（うち、後見人等選任 5 名）

(6) 苦情受付・事故報告

①苦情受付 1 件

計画相談利用者からの苦情。内容は、サービス内容の変更について、説明が不十分であったこと。苦情受付を行い、大川市に報告。本人が、計画相談支援事業所を変更した。本人の申し出により、苦情解決は望まないとのことで、対応は終了した。

②事故報告

相談業務中の車輛事故 2 件。修理及び謝罪にて対応し解決済。

3. 成果と課題

(1) 成果

①大川市障害者相談支援事業

- ・年々増加する相談件数に対する委託料の見直しを要望し、平成 30 年度から増額されることとなった。
- ・高齢障害者への障害福祉サービス提供について、事例検討を行い、自立支援協議会内で関係機関と協議を行った。
- ・認定調査では、遠方で生活する大川市出身の施設入所者と、地域移行の意向を確認することができた。
- ・障害者相談に関するアウトリーチ活動を行うことで、民生委員から行政に障害に関する相談があり、地域に埋もれた障害者のサービス利用に繋がった。
- ・生活支援体制整備事業勉強会に参加。「ドリーム田口」として、30 年度に地域交流の場としてカフェを運営するに至った。

②指定相談支援事業

- ・623 件のサービス等利用計画の作成を行い、約 850 万円の収益を得た。
- ・計画作成の中で多くの事業所に接する機会を得ることで、取り組みについて参考にするとともに、自らが提供するサービスの質について振り返る機会を得た。
- ・大川市福祉事務所や他市町村と協議を行い、モニタリング期間や更新時期の見直し、月によって偏りのある、モニタリング件数の分散を図った。

(2) 今後の課題

①大川市障害者相談支援事業

- ・地域生活支援拠点事業の体制整備に向けた関係機関との協議
- ・自立支援協議会における企画及び運営への参加
基幹相談支援センターを中心とした事例検討の実施
障害福祉分野以外の専門機関との連携 など
- ・サービスに繋がっていない障害者に対するアウトリーチ活動
アルコール等の依存症や累犯者の地域移行支援、当事者団体との連携

②指定相談支援事業

- ・相談支援専門員の質を担保するための人材育成及び利用者増に伴う適切な人員配置
- ・高齢障害者の共生型サービス利用に向けた社会資源の把握

IV 木の香園児童支援センター 単位1 (放課後等デイサービス) (日中一時支援事業「木の香園でいさーびす」)

1. 事業運営実績

(1) 放課後等デイサービス (開園日数 334日)

利用定員	10名	
利用登録者	29名	(前年度 41名)
年間延べ利用者数	3,296名	(前年度 3,471名)
平均利用者数	9.9名	(前年度 10.1名)
退所者数	3名	(退所理由: 高等部卒業のため)

※ 29年度介護給付費収入 33,584,824円(前年度 38,682,350円)

利用料収入 1,434,186円(前年度 1,331,749円)

処遇改善加算 2,792,070円(前年度 2,121,460円)

合計 37,811,080円(前年度 42,135,559円)

(2) 日中一時支援 (三又利用者: 単位1・単位2合計)

(開園日数 304日)

利用定員	10名	(北古賀、下林事業所合計)
利用登録者	17名	(前年度 28名)
年間延べ利用者数	560名	(前年度 649名)
平均利用者数	1.8名	(前年度 1.9名)

(3) 日中一時支援 (三又利用児童: 単位1・単位2合計)

(開園日数 45日)

利用定員	10名	(北古賀、下林事業所合計)
利用登録者	9名	(前年度 12名)
年間延べ利用者数	46名	(前年度 95名)
平均利用者数	1名	(前年度 1.0名)

※ 29年度受託事業収入 1,592,280円(前年度 1,372,040円)

利用料収入 193,231円(前年度 55,720円)

合計 1,785,511円(前年度 1,427,760円)

2. 事業運営状況

(1) 個別支援会議 (放課後デイ)

実施回数 2回 (実人数 2名)

新規利用者については、フェースシート、アセスメントシート、個別支援計画原案作成。発達状況の確認、利用者(保護者)のニーズに基づいた個別支援を実施した。

(2) 関係機関連携会議

実人数 2名

支援を行う中で、関係機関との連携や役割分担が必要な場合に、学校や他デイサービス事業所等と個別の連携会議を行い、課題解決や支援方法について話し合った。

(3) 療育活動

①個別療育

【学習活動】学校宿題、時計の読み方、なぞり書き、パズル等、漢字書き取り、計算問題、お金の計算・両替学習
放課後利用時、手洗いや着替えが終わった後は、すぐ学校の宿題や個別の課題プリントに取り組むように習慣づけを行った。各児の能力に合わせ、なぞり書きや計算プリント等を実施。小学生の児童については名前のなぞりや読み・書きから始め、ひらがなの習得を目指した。中学生以上の利用者については卒業後の社会生活を意識して、買い物の計算や時計の読み等の学習を行った。その際はプリントや疑似のお金を使用するなどして、より実体験につながるような形を目指して学習支援を行った。

【日常生活動作の習得】手洗い、片付け、着替え・洋服畳み等が習得できるよう、声かけや付き添い指導を行った。

②グループ活動【レク・行事】

【レクリエーション活動（放課後・土日）】

ボール遊び、塗り絵、創作活動、釣り、バトミントン、ペーパークラフト、なわとび、シャボン玉、フライングディスク等様々な遊びに挑戦し、好きなことや得意なことを見つける。

【行事（土日）】

買い物実習・外食・バスハイク・映画鑑賞・宿泊研修等外出の機会を増やし、社会生活の経験を増やした。

外食についてはレストラン以外にも身近なファストフード店に行き注文や片付けの体験を行った。メニューについては事前に店舗に打ち合わせを行った。事前の打ち合わせ、当日の確認作業を行うことで利用者もスムーズに体験を行うことが出来た。

宿泊研修や外出では乗船、バーベキュー等、室内とは違う活動を行うことで好奇心や興味が表れ、楽しく・活動的に過ごす様子が多く見られていた。

高等部利用児が、年下の利用児の遊びに付き合ったり、団体行動時に、団体から離れそうな児童を職員に伝えたりと、年下の児童や周囲へ気配りしている様子が窺えてた。

3. 行事報告 別紙行事報告書参照

4. 苦情・虐待及び事故報告

(1) 事故報告

送迎時、駐車している車に、利用児が開けたドアが接触する事故があった。乗り降りの際には駐車位置を考慮するなど対応を図った。

また、ブランコ、滑り台での遊戯中に怪我が2件発生した。長時間遊んで集中力が散漫になっている時は、休憩や気分転換を促し、転落等がないようにするとともに、遊具については各職員が予測される危険性を把握し、可能であれば下見や体験を行っておくこととした。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・単位1は中等部以上の利用者が多くなり、今年から卒業後の生活に目を向けた支援に力を入れた。特に買い物実習を毎月行うことで、支払い方法や金銭感覚を身に着けることができるようになった。
- ・今年度は保護者会を2回行った。1回目は、単位2と合同で行い、単位1の保護者は8名の参加であった。2回目は単位1単位2の単位毎で実施し、参加者は5名であった。単位1は中等部、高等部の割合が高い為、卒業後の生活について、保護者の不安は強く、通所・入所施設についての講演を外部講師に依頼し実施した。参加した保護者より、将来の見通しを立てるために参考になったとの声を頂くことができた。
- ・高等部児童を対象とし、卒業後に向けた支援として、長期休暇を利用して同法人の就労継続B型事業所の見学および就業体験を行った。

(2) 課題

- ・利用児及び家族のニーズをまだまだ十分に把握できていない。家族や関係機関との連絡頻度を増やし、ニーズの把握に努め、質の高い支援計画作成が必要である。
- ・利用児ごとの障害特性に応じた支援を行っているが、支援方法の統一が図られていない。運転手、短時間勤務者を含めた所属職員で、支援方法を統一できるような方策を講じる。
- ・職員の在職年数は様々であり、支援の技術・知識に差がある。事業所内研修や勉強会等を行い、所属職員の知識・技術が向上の図ることで、安定したサービスが提供できるような取り組みを行う。
- ・高等部利用児の保護者からは、卒業後の子どもの生活に対する不安が多く聞かれている。高等部児童を対象に、就業体験や施設見学を増やし、保護者との情報共有や関係機関との連携を行う。
- ・昨年度、高等部卒業等により4名の利用終了者が出た。単位1は利用児の年齢層が高い状況で、4月1日現在、高等部3年生が4名、高等部2年生が7名いる状況である。安定した事業経営の面でも、新規利用者の獲得が課題である。特別支援学校や市と連携をとりながら進める。

<p>・利用児の障害特性（身体・知的）が幅広く、屋内行事においては、興味なく参加しない児童がいる状況で、出来るだけ多くの児童が参加できるような行事検討する。</p>	
--	--

V 木の香園児童支援センター 単位2（放課後等デイサービス）
（日中一時支援事業「木の香園でいさーびす」）

1. 事業運営実績

(1) 放課後等デイサービス（開園日数333日）

利用定員	10名	
利用登録者	33名	（前年度 25名）
年間延べ利用者数	3,328名	（前年度3,254名）
平均利用者数	10.0名	（前年度 9.9名）
退所者数	5名	（退所理由：高等部卒業及び施設入所・転居等のため）

(2) 日中一時支援（単位2利用者）

※単位1報告参照

※29年度介護給付費収入	33,597,499円(32,829,747円)
利用料収入	660,161円(761,063円)
<u>処遇改善加算</u>	<u>2,749,560円(1,959,700円)</u>
合計	37,007,220円(35,550,510円)

2. 事業運営状況

(1) 個別支援会議（療育支援会議）

全ての登録児に対して実施。

新規利用者については、フェースシート、アセスメントシート、個別支援計画を作成。発達状況の確認、利用者（保護者）のニーズに基づいた個別支援を実施した。また常勤職員による定期的なモニタリングを行い、支援計画の評価と課題の整理、新たな個別支援計画の作成を行った。

(2) 関係機関連携会議

実人数 11名（加算請求件数）

支援を行う中で、関係機関との連携や役割分担が必要な場合に、学校や医療機関等と個別の連携会議を行い、課題解決に向け協働して支援を行った。特に困難ケースにおいては、医療機関や学校と密に連携し、役割分担を行いながら支援を実施している。

※上記実績については、加算を請求した件数であり、加算の請求は年に1回しか行えない為、実件数とは異なる。（実件数29件+α）

(3) 自宅訪問による家庭連携

延べ件数 6件（実人数6名、内2人は兄妹）

利用が少し遠のいた児や、家庭状況の確認を必要とする児等の自宅を訪問し、相談支援を行った。園では見えない家庭の状況を把握することにより、保護者や利用児の課題やニーズを明確にし、その後の利用や支援に繋げている。

(4) 事業所内相談

延べ人数 13名（加算請求件数）

児の状況により保護者との面談を必要とする時や、保護者からの希望がある時に、事業所内で相談支援を行った。

*上記実績については、加算を請求した件数であり、加算の請求は月に1回しか行えない為、実件数とは異なる。（実件数43件+α）

（5）療育活動

①個別療育

学習支援：学校の宿題とプリントによる学習支援

児の障害特性やその時々状況を見立て、必要に応じて視覚支援を用いたり、学校や保護者と連携し宿題の量を調整しながら支援を行った。

対人関係の構築：対人関係に困難がある場合等適時介入し、前後の状況の確認と、対人関係が円滑になるよう、振り返りと助言を行った。同年代の自閉症スペクトラムの児が多いことから、衝突は日常的にあり、それぞれに得意な部分からのアプローチを行っている。

ADL及びIADLの自立：排泄や食事の自立に向けた支援や、片付け、着替え、脱いだ洋服の畳み方など、視覚的支援を用いて、自立に向けた支援を行った。また買い物実習、乗り物実習を通して、ひとりで計算をしながら複数の買い物をし、掲示板を見ながら行き先と料金を確認して、切符を購入して乗り物に乗るといった療育も昨年度に引き続き行った。

②グループ活動（レク・行事）

放課後利用時には、宿題や課題が終わった後に、公園遊びや散歩、裏のクリークでの釣り、室内でのボール遊びやWiiのゲームでの遊び、ペーパークラフト等の創作、スライムの感覚遊び等の活動の提供を行った。個々の障害特性や状況に応じて活動を提供し、対象児の感覚や欲求等を満たすと同時に、順番を守る、相手の気持ちを考える、相互に楽しく遊ぶ、ゲームは30分というルールを守るといった社会性の獲得に向けた支援を行った。

休日には、プールや公園等への外出、スポーツクラブや調理実習、お菓子クラブ等のレクの実施、映画鑑賞やバスハイク等のお楽しみ行事の実施、工場見学等の社会活動を行った。下関及び北九州への宿泊研修では海響館といのちの旅博物館へ行き、夜は友達と一緒にホテルに泊まるという日常には無い行事を楽しんだ。初回の宿泊研修では親元を離れることに不安を感じる児が泣いてしまう場面も見受けられたが、回を重ねる毎に逞しくなり、多くの児が旅先で笑顔で楽しんでいる。

3. 行事報告 別紙行事報告書参照

4. 苦情・虐待及び事故報告

(1) 苦情・虐待受付

苦情受付 0件 虐待受付 0件

虐待の相談受付は0件であったが、定期的に行っている職員の虐待防止チェックリストでは、自身の支援に関して不適切であると感じる（反省する）ことや、他の職員の支援が不適切だと感じることがあるとの結果が数件であるが出ている。不適切な支援は日常の中に存在するが、それをチームで振り返り、適切な支援を考え続け、虐待の芽を摘む努力を続けていきたい。

また苦情受付についても、直接苦情という形での受付は無かったが、日頃から園に対して意見等持たれていないか、利用児や保護者に丁寧な支援や対応を行っていきたい。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・様々な処遇困難なケースが増えてきているが、常に職員で情報や支援方針の共有が行えていることにより、適切に利用児や保護者に支援の提供が行えている。学校への登校が難しいケースもあり、ニーズがあれば平日も朝から受け入れ支援を実施している。
 - ・学校や医療機関、行政等と必要に応じて連携が図れており、対応が困難な時には、相互に連携し役割分担を行いながら支援を提供できている。
 - ・保護者会は、今年度は2回実施している。1回目は単位Ⅰと合同で行い、単位Ⅱの保護者は10名の参加があった。茶話会では学校での困り事等話され、担任の先生との協議の仕方等先輩お母さんから助言があった。2回目は、単位ⅠとⅡで障害特性の違いにより保護者に求めるニーズが異なるため、それぞれの単位毎に実施した。単位Ⅱでは就労をしている当事者と就労支援の専門家を招き、将来の就労や自立に向け今から準備できることを考える時間とした。2回目の参加者は3名であった。当日市の行事と重なったこともあったが、参加人数が少なく、年に2回保護者会を行うニーズがあるのか今後保護者と共に考えていきたい。しかし参加された保護者からは好評であった。
- また長期休暇や休日の行事でも、保護者と児童が一緒に楽しめる時間を提供すること、保護者同士の親睦、職員と保護者の親睦を目的に、保護者参加のイベントを複数回設け、実施した。保護者から行事の企画に対し喜びの声を受けている。
- ・日常の活動では、中学生に進学した児童が増えた為、中学生に特化した支援を検討し、木の香塾を開始した。地域の中学に進

学した児は、学校では部活を始め、日常的な利用は少なくなる。しかし学校ではストレスを抱えることが多いが、悩みを分かち合える友人の存在は少ないこと、物事を計画的に進めることが苦手な障害特性から、期間が設けられた課題提出等に困難が生じること等の問題を抱えがちである。これらの課題に対応できるよう、部活が休みになる試験前の期間を利用し、中学生対象の塾を実施した。同じ年代の児童の交流の場の提供と、学習のフォロー、計画的に物事を進めるための個別の工夫等の支援を行っている。保護者からも好評である。

小学生の利用児には、昨年度に引き続き、買い物実習や乗り物実習、調理くらぶ、多くの外出活動等、IADLや社会性を身に付けるためのプログラムを多く提供できた。

(2) 課題

- ・正規職員の退職に伴い新任職員の着任があり、サービスの質の維持に努めた1年であった。今後も職員の異動や新任職員の着任を予定している為、現在提供しているサービスの質の維持に努める。
- ・常勤職員の定期的な会議の実施により、個別支援計画の共有、モニタリングによる支援の評価、今後の支援方針の共有は図れているが、決めた方針の実施ができていないことがある。職員が個別支援計画を記憶し、それぞれの児に適切に提供できるように日々努める。
- ・個別スケジュールについては、取り組みがスムーズな児に関しては定着しているが、主に一部の男児はスケジュールへの取り組みに気持ちが向かず行っていない。全ての児に個別の能力に応じたスケジュールを作成し、将来の自立に向けた支援を提供していく。
- ・放課後学校から帰園後、学校で様々な我慢やストレスを持ち帰っていることから、学習にスムーズに取り組めないことがある。衝動や多動の特性を持つ児が多いことから、フロアに安全に身体を動かして遊べるコーナーを設け、適度にストレスを発散できる環境を整える。
- ・地域の小学校との連携に際し、学校の先生も多忙であることや先生も少人数で支援を行っていること、放課後等デイサービスの役割の周知が進んでいないこと等により、課題の共有に困難が生じることがある。行政や関係機関と連携を図り、ひとりひとりの児に適切な環境や支援の提供、保護者への支援が行えるよう、連携を密にしていく。

VI 共同生活援助事業 「木の香ほ一む」 ※短期入所併設

1. 利用状況

利用定員 23名 (小保5名 道海島7名 木室11名) +短期(空床) 1名
利用登録者 21名 (短期 8名)
年間延べ利用者数 6,039名 (短期 13名)
1日平均利用者数 17.9名 (短期 0.1名)
新規利用者数 7名 (短期 1名)
退所者数 1名

29年度給付費収入	20,306,074円
利用料収入	8,321,446円
特定障害者特別給付費	2,170,000円
<u>処遇改善助成金収入</u>	<u>1,503,080円</u>
	32,300,600円
	(前年度 26,459,350円)

2. 運営状況

(1) 【生活支援】

- ・世話人や支援員による炊事、洗濯、清掃などの日常生活支援を行うと共に、通院同行や利用者の悩み等の相談対応を行った
- ・日常生活において介助が必要な利用者に対し、生活支援員を配置し、必要な支援を行った

【余暇活動支援】

- ・外食やほ一む内での会食を通じ、利用者・職員間の親睦を深める機会を設けた
- ・年末年始をほ一むで過ごす方に、おせち料理を準備するなど、長期休暇中の支援体制の確保を行った

【施設整備】

- ・定員の充足に伴う、新規ほ一むの開設を行った

(2) 【行事報告】 別紙行事報告書参照

3. 苦情受付、事故報告

- ・苦情受付・・・0件
- ・事故件数・・・0件

4. 成果と課題

(1) 【成果】

- ・長期休暇等、ほ一むで過ごされる方々に対して安心して生活できる支援体制の確保を行った
- ・新規ほ一むの開設を行い、利用希望者のニーズに応えた

- ・空室を利用して短期入所で緊急時の受け入れを行った

(2) 【課題】

- ・利用者の状況の変化に合わせて個別支援会議を開催し、再アセスメントとニーズの再整理、個別支援計画の見直しを行い、支援の質の向上を図る
- ・世話人不足の為、人数確保（高齢化）
- ・世話人の情報の共有化が出来ておらず、支援の方向性が統一されていない為、定例会等の実施
- ・単身生活希望のある利用者の地域移行
- ・雨漏りなど老朽化した箇所の施設整備